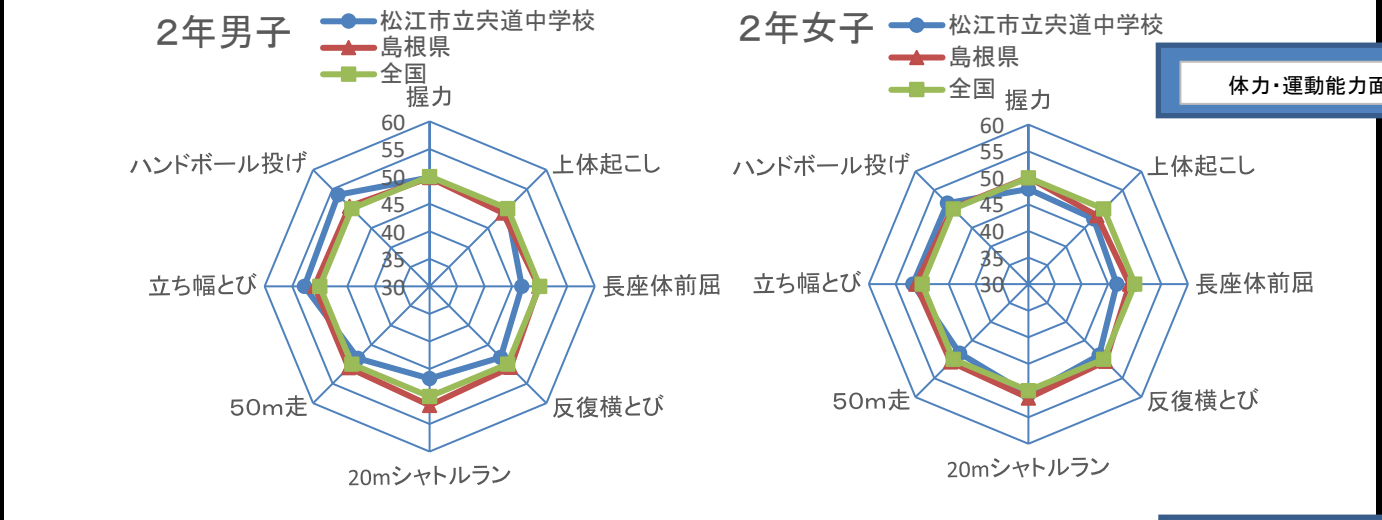
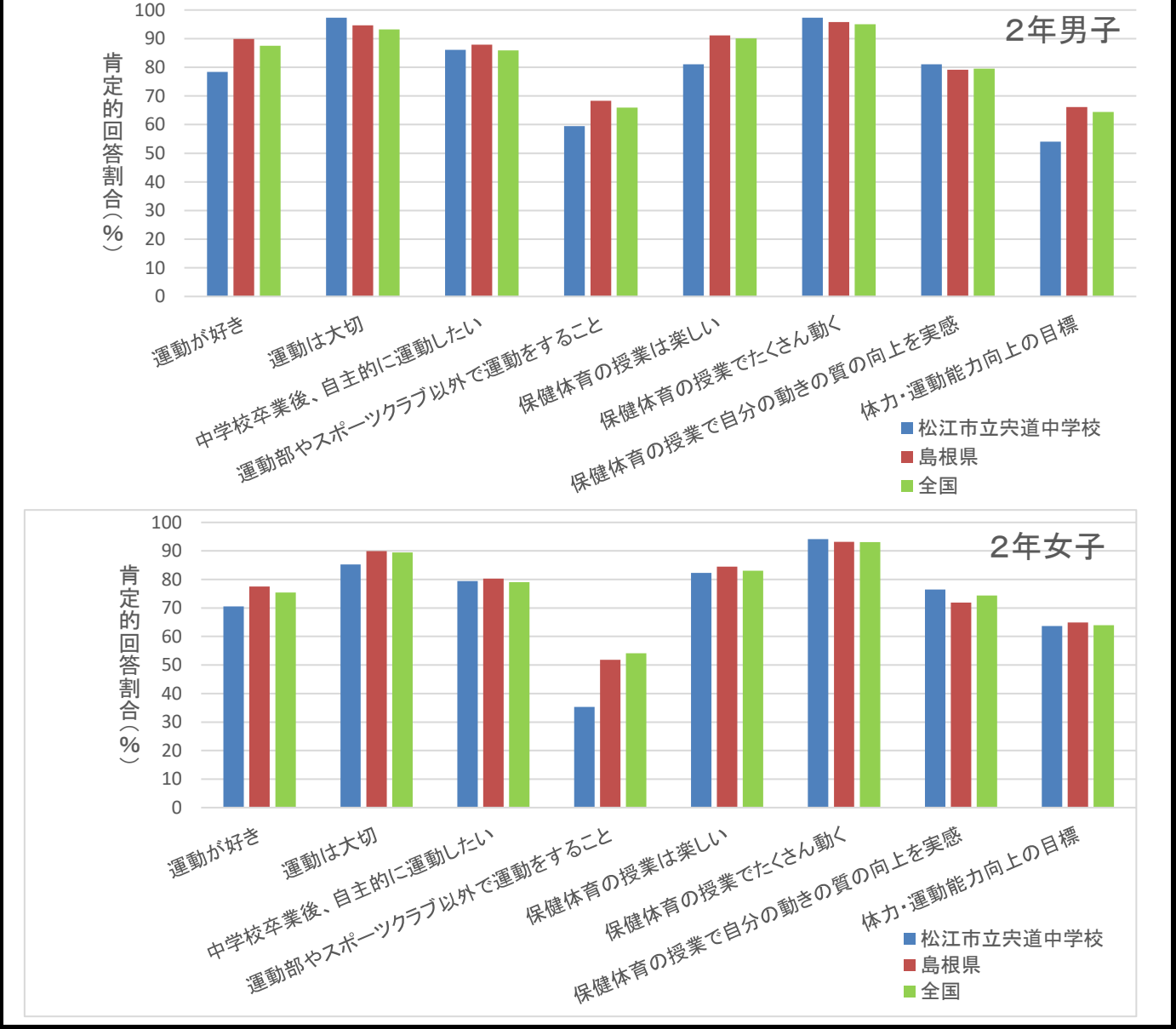


(1) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)

(2) 調査結果の分析



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



① 体力・運動能力面

強み
○男子では「ハンドボール投げ」「立ち幅跳び」が全国平均を上回っている。特に「投力・巧緻性」が強み。 ○女子では「ハンドボール投げ」「立ち幅跳び」が全国平均を上回っている。
課題
●男子では「長座体前屈」「反復横跳び」「20mシャトルラン」「50m走」が全国平均を下回り、特に「柔軟性」「全身持久力」が課題。 ●女子では「握力」「長座体前屈」「上体起こし」「反復横跳び」「50m走」において全国平均を下回り、特に「柔軟性」が課題。
次年度の対策
○来年度は保健体育の授業で柔軟性を高める運動を継続的に行う。また、課題となる体力要素が多くあるため、サーキットトレーニングなど体力要素を複合的に高める運動を行う。 ○新体力テストの結果を早期から生徒へ周知し、次年度の新体力テストを実施する。

② 意識面

強み
○男子では「運動は大切」「保健体育の授業でたくさん動く」の割合が全国平均よりも高い。 ○女子では「保健体育の授業でたくさん動く」「保健体育授業で自分の動きの質の向上を実感」の割合が全国平均よりも高い。
課題
●男子では「運動が好き」「運動部やスポーツクラブ以外で運動をすること」「保健体育の授業は楽しい」「体力・運動能力向上の目標」の割合が全国平均よりも低い。 ●女子では「運動が好き」「運動は大切」「運動部やスポーツクラブ以外での運動をすること」の割合が全国平均よりも低い。
次年度の対策
○「運動が好き」の項目は男女共に県、全国平均を下回っているため、運動に意欲をもって取り組めるような授業改善を行う。 ○「体力・運動能力向上の目標」が県・全国平均を下回っているため、各運動領域において生徒にその単元を通して「習得したい」と思う動きの理想を思考する機会などを創出する。

(3) 令和4年度の方針【学校全体での取組】

- (1) 自校の体力的課題の解決に向けての授業での工夫・改善

 - ・新体力テストの結果を生徒へ周知し、各学年、性別毎の課題を把握することができた。また、数値的な指標を体育館に掲示することができた。
 - ・運動を言葉で「表現する」活動機会が少なく、互いに学び合う時間の確保が課題である。
- (2) 運動の二極化を防ぐための授業での工夫・改善

 - ・運動に苦手意識を持つ生徒も楽しめるような雰囲気や活動できる仲間関係など授業規律を確保できた。
- (3) 授業の過程で、知識を活用したり、表現したりする場面設定の工夫・改善

 - ・模範的な動きをICT機器の活用で理解しやすいように工夫ができた。「見る」機会を増やしていきたい。
 - ・「めあて」の掲示は毎時間できたが、必要感のあるめあての工夫や内容との合致が課題である。
- (4) 保健体育授業以外の活動(運動環境の工夫や家庭への情報発信等)

 - ・生徒会活動と連携し、生徒達が自主的に大会を企画、運営し運動に関心を持たせることができた。
- ＜来年度に向けての方針＞

(1) 自校の体力的課題の解決に向けての授業での工夫・改善

 - ・県平均値より低い体力要素が多いため、複数の運動を組み合わせ、継続して行うなど工夫をする。

(2) 運動の二極化を防ぐための授業での工夫・改善

 - ・各種運動の基礎的な技能を獲得させるために、環境的な配慮や物理的な工夫をする。
 - ・グループ学習などを取り入れ、得意な生徒と苦手意識を持つ生徒の交流を増やす活動機会をつくる。

(3) 授業の過程で、知識を活用したり、表現したりする場面設定の工夫・改善

 - ・体育授業におけるタブレットの有効活用、また、タブレットを用いて話したり考えたりする活動の実施

(4) 保健体育授業以外の活動(運動環境の工夫や家庭への情報発信等)

 - ・昼休みの体育館・運動場使用の推進、保護者向けに生徒の体力情報を発信するなどの工夫